

笛吹市探訪 笛吹市の石造物 お地藏さん

「笛吹市探訪」の59で笛吹市の石造物を取り上げましたが、今回は石和町のお地藏さんの石像について紹介します。

昭和51年、石和町教育委員会では「いさわ路傍の石造物」という冊子を発行しています。319点ある石造物のうち、一番多いのが道祖神で55点、一番目に多いのが地藏で36点以下、馬頭観音が25点、六地藏が24点、六地藏石幢(せきどう)が23点などとなっています。六地藏、六地藏石幢をお地藏さんに含めると83点となり、数は道祖神を圧倒し、いかにお地藏さんの人気が高かったかが分かります。

お地藏さんの分布地域は南の井戸地区から下平井地区・中川地区、松本地区まで及びますが、特に多く残っているのが井戸地区と下平井地区です。東高橋地区、今井地区、日之出地区、川中島地区、山崎地区では確認されていません。

お地藏さんの石像は現在でも事故犠牲者の慰霊を目的に設置されることがありますが、石和町でもっとも古い年号をもつお地藏さんは、小石和地区にある元禄2(1689)年の六地藏石幢です。

井戸のお地藏さん

井戸地区では地藏6点、六地藏6点、六地藏石幢1点が確認されています。

この地区で最も古い地藏は六地藏で享保11(1726)年に建てられたものです。単体の地藏で最古のものは寛政10(1798)年の作で、2点あります。一方のお地藏さんは舟形光背(蓮の花弁をかたどった形)を背負って立ち、合掌しています。他方は合掌して蓮台の上に座っています。ところで石和の川中島地区から井戸地区にかけての平地は過去たびたび笛吹川の氾濫で流されたつらい歴史を持ってきます。井戸のお地藏さんも洪水で埋まったり流されたりして失われたものもあつたでしょう。道路の新設・改良などにより、本来設置されていた場所から移されたものも少なくありません。写真の石造物も本来の場所から動かしてまとめられたもののようです。



井戸の石造物：坐ったお地藏さんは両掌を合わせ、何か箱状の物を載せている。



井戸の六地藏。それぞれ表情が異なる。

下平井のお地藏さん

下平井地区では地藏6点、六地藏3点、六地藏石幢1点が確認されています。銘文が無かったり風化してはつきりしなかったりするものがほとんどですが、一点のみ享保7(1722)年の年号が刻まれたものがあります。

722(1722)年の年号が刻まれたものがあります。

残念なことですが地藏6点の中で頭部が残っているのは1点だけです。姿は坐像一つ、立像が五つで、うち光背をもつものは1点だけです。手の形は合掌しているものと、錫杖しやくじょう(う)をもっているものがあります。

違いを味わう

同じお地藏さんであっても、表情や手の形、持ち物などの違いがあります。顔の表情を丁寧に彫つたものは実に味わいがあり、人気があります。年月を経た素朴なお地藏さんに会いに出かけませんか。



下平井の安楽寺境内地にある3つの六地藏。